

死亡事故を防げ！交通安全町民大会

5月30日、東川町交通安全協会（藤田裕三会長）が、農村環境改善センターで平成19年度交通安全町民大会を開きました。約300人が集まりました。町内では、2年前の8月4日に死亡交通事故が起き



死亡交通事故1000日達成を誓った大会

ました。今年は、死亡事故には至らないものの、すでに人身事故10件、負傷者数16人と、昨年同時期に比べて2件、5人も発生が増えています（5月29日現在）。冒頭、藤田会長は「昨年度の物損

事故は157件もあった。死亡事故をなくすには、物損事故をなくさなければダメ」と語気を強めました。小林幸雄旭川東警察署長はじめ関係者も来席。「スピード出し過ぎ注意、デイトライト運動、交差点の左右確認」を重点に、死亡事故700日（7月5日の予定）へ交通安全宣言を誓いま

ました。5月30日、町立東川中学校（渡辺克孝校長）の1年生90人が学校田で田植えをしました。羽衣公園の中にある約20坪の学校田「羽衣田」。「東川で一番たくさん作っているお米です。苗2株で茶碗1杯分とれるので、大切に植えてください」と指導を受け、「ほしのゆめ」を植えました。小学校5年生で田植えを経験し、5月上旬には神撰田で田植え見学もしているので、みんな慣れたもの。秋の収穫まで生徒自身の手で水田管理などを行います。

東京・八重洲地下街で大雪山工友の魅力PR

大雪山系の自然や産物の魅力をアピールと6月1〜7日の1週間、東京・八重洲地下街で恒例の観光キャンペーンを行いました。

JR東京駅八重洲口地下街のメインアベニューにブースを作り、前年よりやや広い約25平方メートルのスペースに、販売コーナーと写真ギャラリーを設けました。旭川、東川両市町を写真紹介して観光PR。それぞれ自慢の特産品も持ち寄って即売会を開き、

大盛況のにぎわいでした。木工クラフト、木工象嵌（がら）細工製品、コーヒーカップ、湯のみ茶碗など工芸品、蜂蜜、ラーメンなどは人気が高く、特産品は即日完売が続出！特にコマクサなど栽培高山植物は「小さくてカワイイ！」とすごい人気。例年にも増して大きな手ごたえを得ました。



大にぎわいだったキャンペーン



豊作を楽しみに行った田植え

ひがしかわ東京会、盛大に

ひがしかわ東京会（三好光吉会長）の第2回総会が6月2日、東京都港区芝のシーサイドホテルで開かれました。

関東、首都圏に在住している町出身者との交流を広めよう、と昨年発足しました。会員は現在93人に達しています。町からは松岡市郎町長、浜辺啓町議会議長、板谷重徳農協組合長、藤田裕三商工会長らが出席、会員42人が出席して懇談を深めました。「ふるさとを訪れたい」という会員からの要望に答えて、9月に当町へのふるさとツアーを行うことになりました。ひがしかわ会は札幌会、旭川



会もあります。今後合同で集まることが可能かどうか検討することになっています。

快晴に恵まれ山開き

6月16日、快晴に恵まれ大雪山系旭岳が今季の山開きをしました。ふもとの勇駒別神社と旭岳8合目、姿見の池付近の旭平第1展望台で安全祈願祭を行いました。

旭岳、天人峡両温泉街、旭岳自然保護監視員、大雪山愛護少年



旭平第1展望台の安全祈願祭

団員、環境省、森林管理署や町から約40人が出席しました。日一日と夏山へと衣替えが進んでいます。残雪もわずか。最

後の名残雪を踏みしめながら今季の山の安全を祈願しました。続いて青少年野営場で、温泉街の宿泊客も参加してバーベキューパーティーを行いました。地元・近文アイヌの人たちが山の神に踊りを捧げて山の無事を祈る「ヌプリコロカムイ」の儀式では、最後にキャンプファイヤーを囲んでみんなで踊りの輪を作り、山の神様に無事を祈りました。

カメラマンが撮るツアーの来町

全日本写真連盟（東京、御子柴正義会長）会員のハイアマチュアカメラマン一行33人が、6月17〜20日の2泊3日、本町を拠点に大雪山系の撮影ツアーに訪れ、初夏の大雪山を満喫しました。

同連盟創立20周年記念展として、文化ギャラリーで展示会が実現した（6月6〜19日まで14日間）のを縁に、撮影ツアーが実現しました。天人峡温泉での宿泊をベースに、旭岳、十勝岳、然別湖、三



旭岳ロープウェー山ろく駅付近で